

富山市立図書館

# 図書館だより

第49号  
2011.12

## 平成23年度富山市立図書館協議会

平成23年10月26日、平成23年度富山市立図書館協議会(※1)が開催されました。

図書館側から昨年度の事業実績や本年度の主要事業、新図書館整備の経過などについて説明を行ったところ、各委員から次のような質問や意見が出されました。

### 主な質疑応答

(質問)

山田文庫のデータベース化について、広く市民に知らせるため、もっとアピールするべきではないか。

(回答)

図書館のHPには、電子図書館として山田文庫資料のほか、売薬の上袋データ、明治初期の地籍図などを掲載している。今後、もっとインパクトのある形で紹介したり、HPでも目立つ工夫をしていきたい。

(質問)

国の住民生活に光をそそぐ交付金事業により、今年度の図書購入費が増大している(※2)が、その執行状況はどうか。

(回答)

交付金を含む今年度の図書購入費は、例年の2ヵ年分ほどの予算となるので、事務は前倒しで2月頃から選書作業を始め、4月初めからすぐに発注作業ができるようにした。現在、半分ほど執行しており順調だと考えている。

(意見)

今年度は交付金があるため、本来の市の予算が減らされているが、来年度も減らされないか心配である。そうならないように、しっかり予算確保して欲しい。

(質問)

雑誌スポンサー制度について、県内の図書館で実施しているところはあるのか。



※1 富山市立図書館条例に基づき、図書館の運営に関し、館長の諮問に応じたり、図書館奉仕について館長に意見を述べるため、図書館協議会が設置されています。(根拠法令は図書館法16条による)

※2 富山市立図書館HP「運営情報・方針」より、「平成22年度図書館事業実施概要」15p「7. 図書館の経費」に詳細があります。

(回答)

現在実施しているところはないが、県内他市からの問い合わせはあるので、今後、実施するところも出てくると思う。

(意見)

雑誌スポンサー制度について、カバーをかけることによって、当該雑誌の広告が隠れてしまうこともあるため、特に影響がしやすいタウン情報誌などは対象としないほうがよいのではないか。

(回答)

雑誌の選定や、広告の内容等については、図書館と協議して決めることとしており、ご意見は、参考にさせていただく。

(質問)

図書館業務の委託について、過去の市議会での答弁で、「新図書館建設の計画の中で定型的な窓口業務等について検討したいと考えている」とあるが具体的にはどんな業務があるのか。

(回答)

具体的には、貸出・返却・配架などの業務が想定されるが、詳細は今後、検討していくことになる。

(意見)

人口も今後減少していく中で、税収減なども予測され、すべてのサービスを図書館職員がするのは難しくなるだろう。大学図書館ではすでにセルフ化を導入している。

レファレンスについても、例えば一線を退いた高齢者の専門家に協力を依頼するなど、市民の活力を利用してはどうか。

新しい図書館については、ガラス美術館や銀行が同じ建物にあり、雑居ビルにならないように統一した概念を考えてほしい。

(意見)

新しい図書館に向けて、職員をどれだけ効率的に有効に、職員でなければできない仕事を重点的にやっていくか、そして総合的にサービスをどうしていくかということについて、これから知恵をしばって考えてほしい。

(質問)

学校図書館との連携について、新図書館ではどのように実施するのか。

(回答)

具体的には決まっていないが、学校への連携で図書館として何ができるかを広い視野で考え、バックアップ体制を強化していきたいと考えている。

(意見)

学校との連携は以前と比べると、進んできているので、今後も進めていってほしい。

また、欧米並みのセルフシステムも良いのだが、顔と顔を合わせた窓口対応も引き続き必要だ。

(質問)

音訳図書について、より多くの本を提供できるよう、国会図書館の『点字録音図書全国総合目録』に参加してはどうか。

(回答)

国会図書館の件については調査し、参加要件などを確認する。今後も、ハンディを持った人たちに充実したサービスをしていきたいと考えている。

(意見)

図書館は資料の充実も大切だが、ハードな面だけでなく顔見知りの司書と話をし、調べものをしてもらうのも楽しみである。

一部地域において、複合施設が民営化されるうわさがあるが、図書館も一緒に民営化されたら、大変困るので、ぜひ今の形で残してほしい。

(回答)

市では、公共施設全般のあり方を見直ししている。人員についても5%削減といわれており、今後どのような見直しができるか、わからない。サービスも時代とともに変化していくが、必要とされるサービスをただやめるといったことはないと考えている。

(本館 水野)

# 岩倉政治文庫の資料 其の十六



『五年目の雪』  
新日本出版社  
1992年

図書館では先ごろ、企画展示「岩倉政治 家族とともに」を開催しました。会期中には次女の岩倉高子さん、三女の梅原麦子さんも来館され、ご両親の思い出などを聞かせていただきました。

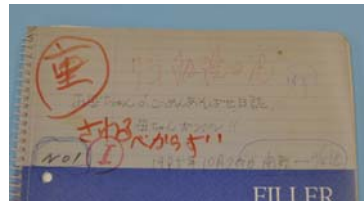
昭和11年に結婚して以来、岩倉夫妻は四人の子どもをもうけ、夫の政治は作家、妻のリイは歯科医としてともに人生を歩みました。高子さんや麦子さんが子どもの頃、岩倉家には学生たちや芸術家など様々な人々が訪れ、毎日が目まぐるしく刺激的だったそうです。一家でお芝居や音楽会、美術展に行くことも多く、現在それぞれ女優、布絵作家として活躍するお二人にも影響を与えました。娘の目から見ても大変仲の良い両親で、リイは夫を小説家として尊敬し「素晴らしい人」と言っていたそうです。

岩倉作品にはしばしば家族がモデルとして登場しますが、今回紹介する『五年目の雪』もその一つです。昭和60年、岩倉家ではリイが脳梗塞で倒れ、一命はとりとめたものの右半身不随と言語障害が残りました。

この作品は当時の体験をもとにした小説集で、雑誌「民主文学」に発表した三編を収録しています。

「登音」は、妻が突然倒れてから退院するまでの日々、「雁の秋」は遠方に住む子どもたちが当番制で介護をする様子を描いた作品です。そして最後の「五年目の雪」には、発病から五年後に訪れた妻の死と、後に残された老作家の悲しみが描かれています。リハビリとして始めた絵では個展を開き、さらに言語障害を乗り越えようとワープロに挑戦するなど、あと十年は生きられそうだと皆で喜んでいた矢先の急逝でした。

当文庫では作中に登場する介護日誌も保管しています。「お母ちゃんの“ごめんあそばせ”日誌」と題された3冊のノートは、入院中に家族間の連絡帳として使われていたもので、岩倉も含めた様々な筆跡が混じっています。これらのノートは、当時の日記とともに「リコ・政のこと」と記した茶封筒に収められており、創作のための資料となったものと思われる。（本館 海野）



「お母ちゃんの“ごめんあそばせ”日誌」表紙  
※〈Ⓢ〉さわるべからずの書き込みがある。

## 「富山市立図書館よみきかせの会」平成23年度中日ボランティア賞受賞

北陸中日新聞主催の「中日ボランティア賞」団体賞を、「富山市立図書館よみきかせの会」が受賞されました。

同会は子どもの読書活動の支援を目的とし、子どもに本の楽しさを伝えたいと平成15年に結成されたボランティアグループです。図書館と連携した活動を中心に、小学校・幼稚園などで、絵本の読み聞かせやおはなし会を行っています。これからの活躍にますます期待が寄せられます。（本館 高田）



# レファレンスあれこれ

## Q. 同じ漢字を繰り返す時に使う【々】という字の読み方を知りたい

「日々」や「人々」など、普段よく見聞きする「々」という文字だが、この文字そのものの読み方はあるのだろうか。

まずは、『大漢和辞典』（諸橋 轍次／著 大修館書店 2001）で調査する。『大漢和辞典』は親文字 5 万余字、熟語 53 万余語を収録した世界最大の漢和辞典で、全 15 巻にわたっている。

『大漢和辞典』には『索引巻』があり、字音索引（音読み）、字訓索引（訓読み）、総画索引などの索引が収録されている。今回の「々」は、読み方がわからないため、総画索引で調べると、第 1 巻に項目があり、「同一文字疊用の記號」と記されていた。

また、別の漢和辞典を調べると、『新大字典』（講談社 1993）では、『大漢和辞典』と同じく「同一文字疊用の記号」、『角川大辞源』（角川書店 1992）では、「同一文字を繰り返す符合」とある。

そこで、記号であるという記述を手がかりにして、『句読点、記号・符号活用辞典。』（小学館 2007）を調べてみる。この辞典は、普段の生活でよく目にする記号や符号を「くぎり符号」や「つなぎ符号」など 13 章に分けて解説してある。「々」は「くり返し符号」の一つと見当をつけてみると、項目があった。

ここでは、「々」の代表的な名称は、「同<sup>どう</sup>の字<sup>じてん</sup>点」であり、「きまった音をもたないことから、漢字でなく符号として扱われる。符号なので漢和辞典に載っていないこともある」とある。また、ほかの名称として「漢字返し」、「漢字送り」、「ノマ<sup>てん</sup>点」など

があり、パソコン入力の際には、「どう」や「おなじ」から変換できることも紹介されていた。

「々」の名称がわかったことから、次に『日本国語大辞典』（小学館 2001）で「同<sup>どう</sup>の字<sup>じてん</sup>点」を調べてみる。ここでは、「踊り字の一つ。漢字一字の繰り返しを表すもの」と記されていた。

同じく、「ノマ点」についても調べると、「のま【々】」として項目があり、「（『々』がカタカナの『ノ』と『マ』を組み合わせたように見えるところからの通称。『ノマ』とカタカナで表記する。）同じ漢字が繰り返されると、第二字に代えて用いる記号で、読みは第一字に従う。漢字の『繰り返し記号』で、重字、疊字ともいい、カタカナの『、』、ひらがなの『、』とともに『おどり字』の一種。」と解説があった。

そのほか、複数の辞書、辞典を中心にした情報源から一括して検索できるデータベース「ジャパンナレッジ プラス」(※1)を使って、「々」について検索してみると、先の『日本国語大辞典』の項目や、デジタル『大辞泉』（小学館）での項目（解説はほぼ同じ）があがってきた。

これらから、「々」は、そのものの読み方はなく、「同<sup>どう</sup>の字<sup>じてん</sup>点」や「ノマ<sup>てん</sup>点」という名称があることを回答した。（本館 沖）

### 年末・年始休館のお知らせ

期間：平成 23 年 12 月 29 日（木）

～平成 24 年 1 月 5 日（木）

※とやま駅南図書館（ぶらり）は、

1 月 4 日（水）から開館します。

※1 有料データベース。富山市立図書館本館、とやま駅南図書館で利用することができます。